

平成 29 年度第 2 回嶺北地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成 30 年 2 月 5 日（月） 9：30～12：00

場所：本山町プラチナセンター ふれあいホール

出席：委員 18 名中、15 名が出席（代理出席 1 名含む）

議事：(1) 地域アクションプランについて

- 1) 嶺北地域アクションプランの進捗状況等について
- 2) 平成 30 年度嶺北地域アクションプラン（案）について

(2) 産業成長戦略について

- 1) 第 3 期産業振興計画 ver. 3 の改定のポイント（全体まとめ）について
- 2) 移住促進分野の取組状況について
- 3) 「志国高知 幕末維新博」第二幕の展開及びポスト幕末維新博について

議事 (1) (2) について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

(1) 地域アクションプランについて

(No.17 嶺北地域の連携による交流人口の拡大)

(大石委員)

「土佐れいほく博」について、進捗状況と県の方針、本山町長のご意見を伺いたい。

(豊永地域産業振興監（嶺北地域本部）)

県は幕末維新博の次はポスト維新博としてアウトドアを中心としたプロモーションを進めていく。「土佐れいほく博」はそれにマッチするものと考えており、県として最大限地域の取り組みを支援していく。現在は、開催に向けて細部を詰めているところである。

(細川委員)

豊かな自然環境を活用した地域の振興について、4名の首長は合意形成ができているものと承知している。2月6日には、平成30年度の事業着手に向けての首長会議を行う予定。

(No.21 嶺北地域の連携による移住促進の取組)

(川村委員)

移住に関して、地域間競争が激化していると感じている。嶺北地域全体で予算を出し合っ、て、広域で移住促進に取り組むことを提案したい。また、我々は移住してからのケアを行っているが、これは非常に重要な業務と感じている。地域の方が安心して移住者を受け入れられるように、こういった部分にもコストをかけていただければと思う。

(和田（守）委員)

れいほく田舎暮らしネットワークには土佐町の移住促進業務を委託しているが、土佐町の予算なので、どうしても土佐町の業務を中心にしていただかないといけない。

嶺北地域全体での受入れを考えると活動がしにくいのではないかと。4町村が協力して移住促進を行うのが一番良いと思うが、それぞれの首長さんの考え方があるので、今後話し合いをしていきたいと思う。

(No.7 土佐はちきん地鶏・大川黒牛を活用した畜産業の活性化)

(小笠原(妙) 委員)

土佐はちきん地鶏の販売ルートはどうなっていて、どこへ行ったら買えるのか。

嶺北産の商品は値段が高いので、一般の方が買いやすい価格にして、地元の方が愛して食せるように見直しはできないか。

(和田(知) 委員)

販売先は首都圏を中心に考えているが、少し値段が高いので、嶺北地域の方や高知県内の方に食していただけるような努力はしていきたい。

(豊永地域産業振興監(嶺北地域本部))

大川村プロジェクトという取り組みの中で、地域内で食べられるように地元での展開も進めている。地元スーパーや道の駅での販売も始まっており、値段の問題はあるが、地域内でも買えるところは徐々に増えている。

(嶺北地域で140年続く酒蔵の地産外商を核とした地域の活性化)

(窪内委員)

土佐酒造の新工場整備によって製造されるお酒の量や、玄米・お米の消費量等についてどの程度増える見込みか。また、県以外の支援はどうなるか教えていただきたい。

(豊永地域産業振興監(嶺北地域本部))

地元産米の使用量を徐々に増やしていく。また、販売額も増やしていく計画になっており、細部はこれから詰めていく。また、県が補助する条件として、地域内のお米を使うことで地域内の農家の収入がある程度見込まれることが必要となる。

今のところ、県は産振総合補助金の活用を視野に入れて協議していく予定だが、国の補助はないと思うので、その他の部分はご自分の資金や銀行の融資等で計画を立てていただくことになる。

(2) 産業成長戦略について

(林業について)

(窪内委員)

CLTが普及すればA材もCLTの原材料になってしまうのではないかと心配している。A材はしっかりと高付加価値化して山元に還元しないといけない。また、木材にする手間を省くため、本来A材になるような原木が山で切られてチップ工場に出ていると聞くがどうか。

(植田嶺北林業振興事務所長)

A材をCLTの原料に使ってしまうと、基本的に収益性は下がるので、そういう懸念はまずないのではないかとと思う。

また、A材のような良い材は基本的に高い値が付くので、チップとして売るとはならないのではないかと考える。ただ、自伐林家の方などが輸送コスト等を考えて、手取りでそんなに変わらない場合に、木質系バイオマスの燃料として流れる可能性もないとは言えないが、全体的に見ればA材の調達において支障を来すほどの問題はないと考える。

(以上)